

和歌山県立医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院（和歌山県）、専門研修連携施設である日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山県）、和歌山労災病院（和歌山県）、公立那賀病院（和歌山県）、ひだか病院（和歌山県）、橋本市民病院（和歌山県）、新宮市立医療センター（和歌山県）、紀南病院（和歌山県）、南和歌山医療センター（和歌山県）、和歌山県立医科大学附属病院紀北分院（和歌山県）、国立成育医療センター（東京都）、信州大学医学部附属病院（長野県）、熊本大学医学部附属病院（熊本県）において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識と技術、態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち1年間は専門研修基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

- すべての領域を満遍なく回るローテーション（後述のローテーション例A）を基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（例B）、ペインクリニックや緩和医療を学びたい者へのローテーション（例C）、心臓血管麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（例D）、集中治療を学びたい者のローテーション（例E）など専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションの組み合わせも考慮する。
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は地域医療支援病院ある日本赤十字和歌山医療センター、和歌山労災病院、紀南病院、南和歌山医療センターで研修を行う。
- 信州大学医学部附属病院・熊本大学医学部附属病院・成育医療研究センターと、プログラムを相互連携しており、地域医療にとどまらず国内幅広い麻酔科研修を行う。
- 和歌山県立医科大学附属病院で勤務する際、初年度に3ヶ月の救急医療もしくは緩和医療の研修を行う。
- 午前の手術前には毎日の症例の検討会や論文の抄読会、学会発表の予演会が行われる。また、専攻医対象の勉強会やセミナーを夕刻に2週間に1回行っている。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C（ペイン・緩和）	D（心臓血管）	E（集中治療）
初年度 前期	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大
初年度 後期	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大	和歌山医大
2年度 前期	和歌山医大	和歌山医大	連携施設	和歌山医大	連携施設
2年度 後期	連携施設	連携施設	連携施設	和歌山医大	連携施設
3年度 前期	連携施設	連携施設	和歌山医大	連携施設	和歌山医大
3年度 後期	連携施設	和歌山医大	和歌山医大 （ペイン）	連携施設	和歌山医大
4年度 前期	連携施設	成育医療センター （小児）	和歌山医大 （緩和）	和歌山医大 （心臓血管）	和歌山医大 （集中治療）
4年度 後期	和歌山医大 （ペイン）	和歌山医大 （小児心臓）	和歌山医大 （緩和）	和歌山医大 （心臓血管）	和歌山医大 （集中治療）

週間予定表

和歌山県立医科大学附属病院麻酔科ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	連携病院	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	連携病院	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直	待機				当直		

心臓血管外科との合同カンファレンスや周産期チームとの合同カンファレンスが不定期で開催される。土曜日には研究会・勉強会・ハンズオンセミナーを催すこともある。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

和歌山県立医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者：川股知之

専門研修指導医：川股知之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

水本一弘（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

栗山俊之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

時永泰行（麻酔）

山崎亮典（麻酔、区域麻酔）

藤井啓介（麻酔、区域麻酔、心臓血管外科麻酔）

樋口美沙子（麻酔）

谷奥 匡（麻酔、神経麻酔）

平井亜葵（麻酔）

吉田朱里（麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔）

専門医：若林美帆（麻酔、集中治療）

神田佳典（麻酔）

荒谷優一（麻酔）

古梅 香（麻酔、集中治療）

丸山智之（麻酔、ペインクリニック）

山崎景子（麻酔、集中治療）

西畑雅由（麻酔）

山本香寿美（麻酔）

麻酔科認定病院番号40

特徴：ペインクリニック、緩和医療、集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 6046症例

	2020 年度
--	---------

小児（6歳未満）の麻酔	218 症例
帝王切開術の麻酔	148 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	330 症例
胸部外科手術の麻酔	294 症例
脳神経外科手術の麻酔	212 症例

② 専門研修連携施設A

日本赤十字社和歌山医療センター

研修実施責任者：伊良波浩

専門研修指導医：伊良波浩（麻酔）

山田伸（麻酔、漢方医学）

川口吉昭（麻酔）

岩橋静江（麻酔）

箕西利之（麻酔）

根来孝明（麻酔、心臓血管外科麻酔）

吉村聖子（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

丹下和晃（麻酔）

片岩真依子（麻酔、ペインクリニック、心臓血管外科麻酔）

池本進一郎（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号 200

特徴：ペインクリニック、漢方医学、集中治療、緩和医療、心臓血管外科麻酔が研修可能である。集中治療はICU専属医師のもとに研修を行う。各指導医は区域麻酔、小児麻酔などの経験・技能も豊富。ペイン、漢方、心臓麻酔はそれぞれの専門医に指導を受けることができる

麻酔科管理症例数 6148 症例

	2020年度
小児（6歳未満）の麻酔	206 症例
帝王切開術の麻酔	154 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	149 症例
胸部外科手術の麻酔	256 症例
脳神経外科手術の麻酔	116 症例

独立行政法人 労働健康福祉機構 和歌山労災病院

研修実施責任者：小川幸志

専門研修指導医：小川幸志（麻酔）

田島照子（麻醉）

槇野仁奈（麻醉）

麻醉科認定病院番号 716

特徴：地域医療支援病院、災害拠点病院

麻醉科管理症例数 2041 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻醉	44 症例
帝王切開術の麻醉	48 症例
心臓血管手術の麻醉（胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	12 症例
脳神経外科手術の麻醉	71 症例

公立那賀病院

研修実施責任者：大岡卓司

専門研修指導医：大岡卓司（麻醉）

上松伸彦（麻醉、心臓血管外科麻醉）

麻醉科認定病院番号 1121

特徴：災害拠点病院

麻醉科管理症例数 936 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻醉	3 症例
帝王切開術の麻醉	8 症例
心臓血管手術の麻醉（胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	54 症例
脳神経外科手術の麻醉	27 症例

ひだか病院

研修実施責任者：羽場政法

専門研修指導医：羽場政法（麻醉）

麻酔科認定病院番号 1544

特徴：災害拠点病院

麻酔科管理症例数 644 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	4 症例
帝王切開術の麻酔	44 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	10 症例

橋本市民病院

研修実施責任者：西浦徳裕

専門研修指導医：西浦徳裕（麻酔）

麻酔科認定病院番号 1547

特徴：災害拠点病院

麻酔科管理症例数 935 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	4 症例
帝王切開術の麻酔	14 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	17 症例

新宮市立医療センター

研修実施責任者：北詰かや

専門研修指導医：北詰かや（麻酔）

麻酔科認定病院番号 1569

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 528 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	6 症例
帝王切開術の麻酔	30 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	48 症例
胸部外科手術の麻酔	7 症例
脳神経外科手術の麻酔	13 症例

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター

研修実施責任者：平野勇生

専門研修指導医：平野勇生（麻酔）

江尻加名子（麻酔、心臓血管外科麻酔）

麻酔科認定病院番号 715

特徴：地域医療支援病院、災害拠点病院

麻酔科管理症例数 865 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	1 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	106 症例
脳神経外科手術の麻酔	106 症例

紀南病院

研修実施責任者：角谷哲也

専門研修指導医：角谷哲也（麻酔）

道幸由香里（麻醉）

黒崎弘倫（麻醉）

上農喜朗（麻醉）

麻醉科認定病院番号1344

特徴：地方の中核病院として、地域医療に貢献する麻醉科医の育成を目標としている。

麻醉科管理症例数 1522 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻醉	7 症例
帝王切開術の麻醉	86 症例
心臓血管手術の麻醉（胸部大動脈手術を含む）	149 症例
胸部外科手術の麻醉	2 症例
脳神経外科手術の麻醉	0 症例

信州大学医学部附属病院

研修実施責任者：川真田 樹人

専門研修指導医：川真田 樹人（麻酔、ペインクリニック）

間宮 敬子（緩和医療、ペインクリニック）

田中 聡（麻酔、ペインクリニック）

石田 高志（麻酔、心臓血管外科麻酔）

杉山 由紀（麻酔、集中治療）

清水 彩里（麻酔、集中治療）

布施谷 仁志（麻酔、ペインクリニック）

石田 公美子（麻酔）

浦澤 方聡（麻酔）

平林 高暢（麻酔）

伊藤 真理子（麻酔）

吉山 勇樹（麻酔、ペインクリニック）

専門医：渡邊 奈津子（麻酔）

丸山 友紀（麻酔、心臓血管外科麻酔）

山田 友克（麻酔）

松井 周平（麻酔）

小川 麻理恵（麻酔）

中村 博之（麻酔）

麻酔科認定施設番号：31

特徴：集中治療、ペインクリニック、緩和医療のローテーション可能

Awake surgeryの麻酔、肝移植の麻酔などを修練可能。術中脳神経機能モニタリングなどを行っている。

麻酔科管理症例数 4512 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	61 症例
帝王切開術の麻酔	206 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	348 症例
胸部外科手術の麻酔	243 症例
脳神経外科手術の麻酔	146 症例

熊本大学医学部附属病院

研修実施責任者：山本達郎

専門研修指導医：山本 達郎（麻酔、ペインクリニック）

杉田 道子（麻酔、ペインクリニック）

生田 義浩（麻酔）

鷺島 克之（麻酔、集中治療）

江嶋 正志（麻酔、集中治療）

野中 崇広（麻酔）

小松 修治（麻酔、ペインクリニック）

橋本 正博（麻酔）

山田 寿彦（麻酔、ペインクリニック）

石村 達広（麻酔）

徳永 祐希子（麻酔、緩和医療）

小野田 昌弘（麻酔）

専門医：林田 裕美（麻酔）

宮川 直子（麻酔）

大吉 貴文（麻酔）

吉田 拓二（麻酔）

原 万里恵（麻酔）

光田 祐樹（麻酔）

桑原 麻菜美（麻酔、集中治療）

中島 拓郎（麻酔、集中治療）

中村 真吾（麻酔）

認定病院番号：34

特徴：ペイン、集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 5044症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	127 症例
帝王切開術の麻酔	151 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	259 症例
胸部外科手術の麻酔	373 症例
脳神経外科手術の麻酔	288 症例

③ 専門研修連携施設B

国立成育医療研究センター

研修実施責任者：鈴木康之

専門研修指導医：鈴木康之（小児麻酔・集中治療）

大原玲子（産科麻酔）

糟谷周吾（小児麻酔・救急）

佐藤正規（産科麻酔）

蜷川 純（小児麻酔）

山下陽子（産科麻酔）

行正 翔（小児麻酔）

専門医：馬場 千晶（小児麻酔）

宮坂 清之（小児麻酔）

古田 真知子（小児麻酔）

松永 渉（小児麻酔）

橋谷 舞（小児麻酔）

浦中 誠（産科麻酔）

阿部 真友子（小児麻酔）

伊集院 亜梨紗（産科麻酔）

麻酔科認定病院番号：87

特徴：

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

麻酔科管理症例数 4670 症例

	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	2195 症例
帝王切開術の麻酔	700 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	129 症例
胸部外科手術の麻酔	17 症例
脳神経外科手術の麻酔	179 症例

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院

研修実施責任者：栗山亘代

専門研修指導医：栗山亘代（麻酔）

認定病院番号：1976

特徴：第二種感染症指定医療機関

脊椎センター・認知症疾患医療センターを設置しており、脊椎外科手術、高齢者手術の周術期管理を習得できる

麻酔科管理症例数 279 症例

経験必要症例	2020 年度
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	9 症例
脳神経外科手術の麻酔	2 症例

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2021年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

郵便番号 641-8509 和歌山県和歌山市紀三井寺 811-1

TEL 073-441-0611 FAX 073-448-1032（麻酔科学教室）

担当者：和歌山県立医科大学麻酔科学教室 栗山俊之

e-mail：kuriyama@wakayama-med.ac.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院として日本赤十字和歌山医療センター、和歌山労災病院、南和歌山医療センター、新宮市立医療センターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。